

社会調査士科目認定に関わる確認項目

一般社団法人 社会調査協会

【A 科目】社会調査の基本的事項に関する科目

<授業の内容>

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を含む。

(90分×15週)

<確認項目>以下の諸点について授業でふれているか

- ア) 社会調査の目的と意義
- イ) 社会調査史
- ウ) 調査倫理
- エ) 実際の調査例
- オ) 量的調査
- カ) 質的調査

* 「社会調査の基本的事項」に関する8コマ以上の授業

【B 科目】調査設計と実施方法に関する科目

<授業の内容>

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する科目。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法(調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など)、調査データの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成)など。

(90分×15週)

<確認項目>以下の諸点について授業でふれているか

- ア) サンプリング
- イ) 調査票の構成と質問文の作り方
- ウ) 調査の方法(実査の方法、調査票の配布と回収法等)
- エ) 調査データの整理(コーディング・データクリーニング等)

* 「調査の設計と実施方法」に関する内容の8コマ以上の授業(質的なものを含んでいなくともよい)

【C 科目】基本的な資料とデータの分析に関する科目

<授業の内容>

官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識に関する授業。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方。相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念などを含む。

(90分×15週)

<確認項目>以下の諸点について授業でふれているか

- ア) 統計資料の整理 (既存統計資料の収集と読み方)
- イ) 主要な記述統計量 (平均、分散、標準偏差を含む)
- ウ) クロス集計
- エ) 因果関係と相関関係

* 「基本的な資料とデータの分析」に関する内容の8コマ以上の授業

【D】社会調査に必要な統計学に関する科目

<授業の内容>

統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を教える科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用 (平均や比率の差の検定、独立性の検定)、抽出法の理論、属性相関係数 (クロス表の統計量)、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎など。

(90分×15週)

<確認項目>以下の諸点について授業でふれているか

- ア) 確率論の基礎 (確率変数あるいは正規分布等)
- イ) 検定あるいは推定
- ウ) 相関係数

* 「社会調査に必要な統計学」に関する内容の8コマ以上の授業

【E 科目】量的データ解析の方法に関する科目

<授業の内容>

社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル (たとえば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、因子分析、数量化理論など) の中から若干のものをとりあげる。

(90分×15週)

<確認項目>以下の諸点について授業でふれているか

- ア) 重回帰分析の解説
- イ) 重回帰分析以外の多変量解析法の解説 (最低1種類)

* 「量的データ解析の方法」に関する内容の8コマ以上の授業

【F 科目】 質的な分析の方法に関する科目

＜授業の内容＞

さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する科目。聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析の他、新聞記事などのテキストに関する質的データの分析法（内容分析等）など。（90分×15週）

＜確認項目＞以下の諸点について授業でふれているか

ア) 2種類以上の質的な調査法の解説

* 「質的な分析の方法」に関する内容の8コマ以上の授業

【G 科目】 社会調査の実習を中心とする科目

＜授業の内容＞

調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程について、ひとつおりの実習を通じて体験的に学習する授業で、中心となるものは量的調査あるいは質的調査のどちらでもよい。演習で行っている実習も含む。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成。また、実際にアプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習、もしくは、質的データの分析ないし事例研究を行う実習を含む。

（90分×30週）

＜確認項目＞

ア) 記載欄の記述が、具体的かつ十分な説明であること。（「特になし」「開講時に学生と相談して決める」「テーマについては、調査にあたる学生グループに任せる」などといった記述は、説明に具体性が欠けており、明らかに説明が不十分である。）

イ) 「社会調査」に関する「実習科目」であること。（発掘調査、史料収集の調査、心理実験、水産資源調査などの科目であっても、「社会（に関する／を）探求する）調査」を実施することが盛り込まれていれば可とする。）

ウ) 調査の企画・設計から始まって、実査、データ分析、成果報告書の作成に至るまで、社会調査の全過程を一通り、実習を通じて体験的に学習する授業であること。（なお、二次分析の実習を主要内容とする（現地調査を伴わない）場合でも、調査の企画・設計から成果報告書の作成までの調査の全過程が実質的に学べるのであれば、可とする。）

エ) 共通のテーマを設定した授業であること。（共通のテーマを設定せずに、学生の卒論指導的な授業や学生個人の問題関心に任せる授業になっている場合は、認定できない。）